三重県立熊野古道センター からのてがみ

"The Letter from Mie Prefecture Kumano Kodo Center"　2009, VOL.13

東紀州は海と山が近く、地形も起伏に富み複雑に入り組んでいるため、とても多様な生物や植物が生息しています。また温暖多雨な気候により、シダやコケの種類の多さは日本でも有数の地域です。熊野古道センターの周りにも、海から森まで豊かな植生が広がり、周辺の散策も来館者にとって大きな楽しみとなっています。

当センターでは、そんな豊かな環境を体感し、一層理解を深めていただくため、建物の周辺にて様々な自然講座を開催しています。

澄んだ水が流れ落ちる村嶋不動滝周辺でのコケ講座では、日常生活でなかなか意識することのないミクロの世界に、皆さん驚きの連続でした。コケの不思議を知ることで、熊野古道の「コケむす石畳」を歩くとき、きっと新しい楽しみ方ができるのではないかと思います。

夏休みの昆虫講座には子どもたちがたくさん参加し、目を輝かせてチョウやトンボを追いかけました。滝から続く小川では、きれいな水辺にしか生息しないミヤマカワトンボを発見‼ 生きものたちの住みやすい自然がここにあることを知りました。

大人も子どもも熱中した昆虫講座

また目の前にある磯遊びにピッタリの弁財島（べざいじま）周辺では、貝の美しい模様を発見したり、カニやヤドカリと遊んだあと、見つけた貝殻などを箱に入れて飾りつけた、自分だけの宝箱を作りました。干潮の時には陸ができて、島の鳥居まで歩いて行けるんですよ。

ほかにも、薬草、鳥、山菜などをテーマにして講座を開催してきました。見て、聞いて、香りをかいで、味わって、触れて、五感を通じて、自然とのかかわり方は無限に広がってゆきます。

ふだん何気なく通り過ごしているところでも、一度ゆっくり目を凝らし、耳を澄ませてみましょう。そこには驚くほど多くの生きものたちがいることに気がつきます。熊野古道センターでは、暮らしをより豊かなものにする、身近な自然の新しい見方、楽しみ方を、どんどん提案してゆきたいと思います。

弁財島講座でつくった海の宝箱

熊野古道センター
-21.012.10
KODO CENTER

熊野古道からのてがみ

13 通目

皆さん、こんにちは。私は山が好きで、歩くことが苦にならないことから、小学生をキャンプに連れて行ったり、熊野古道関係のイベントに参加しながら、今では語り部として熊野の魅力を紹介させてもらっています。都会からのお客様は、まず最初に海の青さと緑の濃さに目をひかれ、古道の石畳では平坦な尾根道だけでなく急峻な山道にこそ石を巧みに積み上げ、我が国でも有数の豪雨地域の峠道を守る、先人の知恵と工夫に驚かされています。

世界遺産登録直後の、観光バスが連なり華やいだ賑わいも少なくなり、今は家族やグループが落ち着いた雰囲気で古道を楽しまれています。

さて、これからはゆっくりと連泊していただき、例えば、早朝雲海の上に日の出を見たり、一日の終わりに西山に沈んでゆく太陽と夕焼け雲、夜半ふと仰ぎ見る満点の星の輝きなど、私たちが普段忘れてしまっている時間をじっくり体感してほしいと思っています。因みに最近丸山千枚田の虫送り行事を案内して、通り峠の見晴台から降りだした直後、雲に隠れていた太陽が、まさに沈む直線の輝きを私たちに投げかけた一瞬の演出効果に全員感動し、その後の千枚田全体を彩る蝋燭の小さな明かりを楽しむことができました。

雨あがりの丸山千枚田

この様に、熊野にはまだまだ隠された魅力がいっぱい詰まっています。このような出会いのある熊野を少しでも多くの方に知ってほしい、また来てほしいと思いながらガイドをしています。どこかの峠道で皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

山口朝（やまぐちあした）さん（紀宝町）
熊野古道語り部友の会々員
CONEインストラクター
（自然体験活動指導者）

筆リレー

次は 御浜町の 清水鎮一（しみずしずかず）さん

花尻 薫からの季節のたより No.13「海の熊野古道で冬を越す生きものたち」

雪の降る頃の陽だまりで冬を越す、亜熱帯植物のタイキンギク（堆金菊）、別名ユキミギクが開花し、岬のツバキやシイの葉の裏でじっと越冬するオオキンカメムシの姿を目にする季節になりました。ツキノワグマやマムシが冬眠している山里に比べて、海の熊野古道沿いは温暖で陽がやわらかく、黒潮のしぶきと磯の香りが、住民に快感を与えます。タイキンギクは、はるばるフィリピンやアジア大陸から琉球諸島、九州、四国を経て北上したものです。わたしが熊野古道の曽根次郎坂太郎坂で発見してから10年になります。

オオキンカメムシは夏の間、島根県や福井県でアブラギリを食べて成長し、秋の 10 月中頃、暖かい太平洋の沿岸地方を目指して、集団で飛来します。紀伊半島の岬でも、熊野古道の常緑広葉樹林帯は、かれらの越冬場所として最適の環境です。

不思議な模様のオオキンカメムシ

一輪や二輪の花では枯れてしまい、数少ない集団では死滅して子孫を増やすこともできないことを知る生物たちは、知恵として大集団という越冬方法を選んでいるのです。タイキンギクもオオキンカメムシも厳しい冬に耐えるため、熊野古道の海辺を選んで群れで移動したものです。

センター敷地内『夢古道おわせ』へぜひお立ち寄りください！

※夢古道の湯は年中無休。ランチバイキングは12月31日（木）と1月1日（金）がお休みです。

お母ちゃんのランチバイキング

尾鷲・東紀州の食材をふんだんに使った、地元のお母さんの味です。

営業時間：11:00～14:00

料　金：中学生以上・・・1,200円
子ども・・・・・700円
乳幼児・・・・・無料
60歳以上・・・・1,000円

みえ尾鷲海洋深層水「夢古道の湯」

深海415メートルから取水された海洋深層水のお風呂。ミネラル分が豊富で保湿性に優れているので、湯上り後もポカポカです。

開館時間：10:00～21:00

入浴料：一般・・・・・・600円
65歳以上・・・・500円
4歳～小学生・・300円
4歳未満・・・・無料

お風呂あがりは、カフェでまったり♪
営業時間：9:00~21:00
（ラストオーダー20:30）

●お車でお越しの方は・・・
★国道42号線で尾鷲市内
→矢ノ浜南交差点を海側へ曲がる
→突き当たりを右折
→県道を海沿いにしばらく走り、
案内看板を右折して到着です。

●電車でお越しの方は・・・
★JR尾鷲駅下車
→ふれあいバス「尾鷲駅」バス停
→「紀伊松本行き」乗車
→「熊野古道センター前」下車
（バス乗車時間約10分）

★松阪駅
→南紀特急バス「熊野古道センター行」
終点下車（約2時間）

☆熊野古道センターニュースレター☆
"熊野古道センターからのてがみ Vol.13"

●発行日：2009年12月10日（季刊）
●編集・発行：三重県立熊野古道センター
（三重県指定管理者　NPO法人熊野古道
自然・歴史・文化ネットワーク）
●編集担当：縣（アガタ）
●連 絡 先：〒519-3625
三重県尾鷲市向井字村島12-4
TEL 0597-25-2666　FAX 0597-25-2667
Mail　info@kumanokodocenter.com
H P　http://www.kumanokodocenter.com/
●開館時間：午前9時～午後5時
●入 場 料：無料
●休 館 日：12月31日、1月1日
（その他メンテナンス時休館）6000091210TA

地域の情報News
Pick Up.　潜入取材!!　熊野古道センターの図書室

熊野古道センターに図書室があるのを皆さんご存知ですか？木造棟の裏側にある白い建物には、来館者が自由に利用することのできる図書室があります。現在の蔵書は約 4000 冊。明るく静かで、本を読むには最適の場所です。

室内には熊野古道に関するものはもちろん、歴史や民俗、自然、百科事典など様々なジャンルの本を揃えています。これから初めて歩く方や、子どもたちの地域学習にもピッタリな、わかりやすく熊野古道を解説した本は、ぜひ多くの方に活用していただきたいと思います（小山靖憲『熊野古道』、岩波新書、2000 年など）。

熊野古道の石畳や石造物に関する本

他にも、熊野灘の漁民とクジラの深い関わりをまとめた『熊野太地浦捕鯨史』（熊野太地浦捕鯨史編纂委員会／編、平凡社、1969 年）や、佐藤春夫・中上健次・井上靖・野口雨情など、熊野にゆかりのある作家の各作品・文学全集からは、当地域の奥深い文化が感じられることでしょう。自然分野では、200 部限定で発行された『新装日本のシダ植物図鑑』全 8 巻（東京大学出版会、2005 年）など、他であまり目にすることのできない希少本がたくさんあります。

植物に関する本も充実しています

また図書室の本以外にも、巡礼道具から古文書、古写真や植物標本まで、様々な資料を収集することで、企画展示やイベントに活用しています。

熊野古道センターへお越しの際は、ぜひ図書室へもお立ち寄りください。きっと新しい発見があることでしょう。熊野古道や東紀州の歴史、自然などについて詳しく調べたいことがある方も大歓迎です！！

◎開室時間：毎日　午前 10 時～午後 3 時
　＊都合により休館となる場合があります。
◎その他の収蔵資料例
　『西国三十三所名所図会』暁鐘成（あかつきかねなり）/ 編、嘉永 6 年（1853）
　『佐藤春夫筆色紙』明治 28 年（1895）
　道中財布（腹巻（はらまき））・矢立（やたて）・笈摺（おいずる）（装束）・お守りなどの巡礼道具
　東紀州で見られるシダ・コケなどの植物標本　他

江戸時代の熊野古道馬越峠の様子
≪『西国三十三所名所図会』嘉永6年（1853）刊、当センター所蔵≫

紀伊山地の霊場と参詣道　登録５周年記念　「一万人の参詣道『環境保全』活動」

紀伊山地には、自然崇拝を起源とする神道の霊場「熊野三山」、中国から伝来した真言密教の霊場「高野山」、山岳信仰の聖地であり修験道の霊場である「吉野・大峯」という三つの霊場と、そこに至る「参詣道」があります。

現在、世界遺産は 890 箇所ありますが、信仰の道として登録されているものは、他にスペインのサンティアゴ・デ・コンポステーラへの巡礼路だけで、世界に 2 例しかない貴重な資産です。道の大部分は幅 1 メートル前後と狭く、石畳や階段となっている部分もありますが、多くは山中の土の道です。世界遺産の文化を育んだ紀伊山地は、年間を通して雨量が多く、台風などの災害にもたびたび見舞われる地域でもあり、道の傷みも確認されています。

「紀伊山地の霊場と参詣道」は、登録資産の総面積が約 500 ヘクタールと広範囲にわたり、特に参詣道の総延長は 300 キロメートル超に及びます。こうした条件のなかで登録資産を大切に保全し次代に引き継いでいくためには、多くの人々の理解と協力により、継続性のある保全活動を展開していくことが重要です。

その世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」が今年７月で登録５周年を迎えました。これを記念して、その本質的価値を再認識し、次世代に良好な状態で資産を継承するため、和歌山県では「一万人の参詣道『環境保全』活動」を実施しています。参詣道の環境保全活動の趣旨に賛同する企業・団体・グループ等で、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に登録された和歌山県内の参詣道及び周辺地域において行う環境保全活動です。

熊野古道を守る「道普請」の様子

参加希望の方は、環境保全活動の実施前に所定の届出書に必要事項を記入し、提出してください。「一万人の参詣道環境保全活動」の対象となる環境保全活動と認められる場合には、届出受理書と参加記念品を送付します。（参加記念品は先着１万人までとなります。）

詳しくは、 http://www.sekaiisan-wakayama.jp/fifth/index.html をご覧ください。
環境保全活動の内容によっては、法や条例による許可が必要となる場合もありますので、世界遺産センターへご相談下さい。

和歌山県世界遺産センター
田辺市本宮町本宮100番地の1　世界遺産熊野本宮館内
TEL　0735-42-1044　　HP http://sekaiisan-wakayama.jp/

イベント情報
Event Info.　熊野古道センター企画展・第28回三重県埋蔵文化財展「熊野文化のはじまり　～縄文人がやってきた～」

開催期間：平成21年12月12日(土)～平成22年2月11日(木・祝)　※12月31日(木)・1月1日(金)は休館
時　　間：9:00～17:00　場所：企画展示室　入場料金：無料
主　　催：三重県立熊野古道センター・三重県埋蔵文化財センター

三重県東紀州で発見された考古資料をもとに、自然と共生してきた人々の暮らしや、海や山を越えて繰り広げられた東西交流など、魅力ある「熊野文化」の黎明期（れいめいき）を紹介します。また展示では、縄文人は何を食べていたのか？縄文土器はどのように作る？など、様々な縄文時代の不思議を解き明かします。

曽根遺跡出土の深鉢（尾鷲市）

【付属企画】

体験講座①「石器をつかってみよう！」
講師による実演（縄文人のように、石器で魚をさばきます）のあと、石器を使ってオリジナルのストラップやタッチペンを作ってみましょう。
日　　時：平成21年12月27日(日)14:00～16:00
参 加 料：100円
定　　員：25名(要申込)
場　　所：体験学習室
講　　師：原田幹氏（愛知県教育委員会）

体験講座②「縄文土器・土偶を作ってみよう！」
縄文土器・土偶の秘密を学ぶ解説のあと、実際に縄文土器・土偶を作ります。
日　　時：平成22年1月23日(土)13:00～15:00
参 加 料：100円
定　　員：25名(要申込)
場　　所：体験学習室
講　　師：三重県埋蔵文化財センター職員

体験講座③「むかしむかしの塩作り」
生活に欠かせない“塩”の歴史を聞き、現代によみがえった「製塩土器」で、あなただけのオリジナル「薬草塩」を作りましょう。
日　　時：平成22年2月7日(日)13:00～15:00
参 加 料：300円
定　　員：25名(要申込)　場所：体験学習室
講　　師：三重県埋蔵文化財センター職員、平山浩介氏（『葉っぱがシェフ』jomonオーナー）

企画展「全員集合！！熊野の観音さま（仮）」

開催期間：平成21年2月20日(土)～平成22年4月8日(木)　※会期中無休
時　　間：9:00～17:00　場所：企画展示室　入場料金：無料

熊野古道伊勢路は熊野三山へ通じる道であり、観音信仰に基づく西国三十三所巡礼の一番札所・青岸渡寺へ向かう道でもあります。熊野古道沿いには多くの観音様があり、地元の方々の信仰を集めるとともに、旅人たちも立ち寄って、道中の安全を祈願していました。

今回の企画展では、地域に息づく観音信仰を通じ、熊野地方に暮らす人々のこころを感じていただきたいと思います。

熊野古道観音道の観音石像（複製）

体験教室

お正月ワクワクものづくり体験

熊野古道センターでは、お正月に様々な体験教室を開催いたします。楽しい思い出づくりに是非ご来館ください。すべて事前の申込は不要です。
＊体験教室のほか、凧やコマ、羽子板など、お正月の遊び道具を無料で貸し出しします。

1月2日(土)～5日(火)　勾玉づくりでタイムスリップ
◇時　間：13:00～15:00受付
◇参加料：100円
1月2日(土)・4日(月)　干支折り紙で飾り物づくり(寅)
◇時　間：13:00～16:00
◇参加料：300円
◇講　師：七見憲一氏(当センター理事)、むっそうえん会
1月3日(日)　トチ餅を作ろう!!
◇時　間：12:30～
◇参加料：無料
1月3日(日)　その場でできるひのきアート教室
◇時　間：13:00～15:00受付
◇参加料：ヒノキしおり 200円、ヒノキ箸 300円、ウッドプレート 300円、他

ひのきアート教室

地域の特産品である「尾鷲ひのき」を使ったものづくり教室です。月別教室のほか、毎週日曜日の13:00から15:00までは、申込不要でしおりやお箸などを作ることができます（200円～）。
12月13日(日)「お正月飾り」　◇参加料：1,500円
1月24日(日)「節分飾り」　◇参加料：1,000円
2月14日(日)「おひなさま飾り」　◇参加料：1,500円
3月14日(日)「ひのき行灯」　◇参加料：1,500円
◇時間：13:00～16:00
◇定員：12月のみ20名、ほか各10名(要申込)
◇場所：体験学習室
◇講師：NPO法人海虹路会員

1月10日(日)「東紀州の四季を味わう料理教室～熊野地鶏～」

東紀州の旬の特産品を使った人気の料理教室です。講師は、高校生レストラン「まごの店」でも有名な、相可高校の村林新吾先生と生徒さんです。
◇時　間：10:00～13:00
◇参加料：2,000円
◇定　員：24名(要申込)
◇場　所：体験学習室
◇講　師：村林新吾氏(相可高校食物調理科)

講座・講演

3月7日(日) 熊野古道講座「進め！！大馬神社探検隊」

熊野市の大馬神社は、坂上田村麻呂ゆかりの由緒ある神社です。熊野市の天然記念物に指定されている社叢のなかで、そんな伝説を見守ってきたであろう植物や昆虫たちを観察し、自然の秘密に迫ります。
◇時　間：9:00～11:30
◇参加料：300円(資料代・保険料含む)
◇定　員：15名(要申込)
◇場　所：大馬神社(熊野市井戸町)
◇講　師：花尻薫氏(当センター長)
　　山口和洋氏(三重昆虫談話会々員)

新しい古道の歩き方

1月24日(日)・31日(日)「冬の清五郎滝に会いに行こう」

紀北町海山区の山奥に流れる、幻の清五郎滝へご案内します。冬には凍結して氷瀑(ひょうばく)になることもあります。NPO法人ふるさと企画舎(キャンプinn海山指定管理者)との共催事業。＊中学生以上の健脚の方、登山経験のある方対象です。
◇時　間：9:00～16:00頃
◇参加料：3,000円(キャンプinn海山宿泊の方は10%OFF)
◇定　員：各9名(要申込)
◇集　合：種まき権兵衛の里駐車場(紀北町海山区便ノ山)
◇申込先：キャンプinn海山(TEL 0597-33-0077)

1月30日(土)「魚つき林と紀伊の松島を味わう旅 in 島勝」

クルージングと徒歩により、魚つき林と漁村の暮らしとの深いかかわりを感じることができるツアーです。魚つき林とは、海岸沿いの保安林で、雨で森から海に流れ出た養分がプランクトンを育み、そこに魚が多く寄り付きます。東紀州観光まちづくり公社との共催事業。
◇定　員：10名(要申込)
◇場　所：紀北町島勝浦周辺
※詳細は決定次第HPや新聞等にてお知らせします。

≪お申し込みはお電話か、直接センターにてどうぞ！TEL:0597-25-2666 ≫